

ね じ れ ば ね

Vol. 1, No. 1 (APR. 1956) - 近畿甲虫同好会々報 -

創刊のことは

私たちが本会創立以来懐いていた色々の計畫の中には実現して会員諸賢の御好評を得たものも可成りあるが又一方色んな支障によつて思うように実現出来ないものもあつて残念に思つていたが、漸く或る程度の基礎が確立したので、今回会の創立十周年を自祝し又会員諸賢への感謝の意を込めて、本誌「ねじればね」*Strepsiptera* を創刊、会員にお贈りすることとした次第である。

「ねじればね」は機関誌「昆虫学評論」の紙面を成可く重要な報告ばかりに充当するため、其他の会報等の記事を収めることは勿論、会員相互の連絡などに紙面を提供したり、新しい研究・ニュースの紹介なども適当な方々をお願いして試みたいと考えていて、当分年四回発行、頁数は内容に比例して増減するが、出来るだけ変化にとんだものとして行きたいと考えている。

新誌名とした「ねじればね」は既によく知られているように甲虫の仲間に入れられたり、或いは非常に近い独立の一目とされたりしている興味深い寄生性の昆虫であり、早は一生寄主の体内に生活する体の関節もはうざりと分れない幼虫形のもので、それが短期間寄生の体外に脱出して、扇状の翅でとび歩く興味深い習性をもっている。この寄生を受ける寄主は現在、ウンカ及び蜂類が最も多く知られ、カメムシ及びハツタ類其他多くが次いで知られている。昆虫甲虫の中のアオハナノミヤ



クシヒゲネジレバネ

ツチハンミョウなどと同じような過変態を示し一令幼虫は三爪形幼虫で寄主の体内にいる母の体から脱出して寄主によつて花上や地上に運ばれ適当な寄主を見つける訳であるが、面白いことに寄生を受けた昆虫は生命を失うことなく唯「ねじればね吸われ」という現象を起し生殖能力を失つたりするとのことである。甲虫同好者の夢い本会に生れその寄生者的存在である本誌にはこの「ねじればね」こそ最もやさしい名であろうと命名した次男であるが、せいぜい努力してHostに「ねじればね吸われ」を起さぬようにしたいものと考えている。尚本誌は河野 洋幹事に主として擔當して頂くことゝなつていたので同幹事宛御希望 御意見などせいぜいお寄せ願つて一考づゝより会誌に育てて行きたいと思う。(林)

「玉押しこがね」兵庫県に産す？

林 匡夫

近着の *Mitteilungen der Münchener Ent. Ges.* の 445 (1954/1955) を見た所、チエッコスロバキヤの食糞金龜子虫類の權威 V. Balthasar 博士が、*"Gymnopleurus* 属の1新種及1新亜種" という論文で、何と兵庫県武庫川から *G. (Paragymnopleurus) stipes* ssp. *japonicus* (p. 395) という1新亜種を報告されているので吃驚した。もちろん原種は *Philippines* 産で、採集日付・採集者等は記載されていないので誰がこの材料を送附されたものか分らぬが、こゝ当分糞虫愛好者の間で問題になろうというものだ。

Eine neue Art und Unterart der Gattung Gymnopleurus, Ill. (Col.),
90 Beitrag zur Kenntnis der Scarabaeiden (pp. 393~396).

会名変更の件につきお知らせ

昨年11月6日南催の昭和30年度大会において、当会々名の変更につき討論されましたが結論は得られず、結局幹事会に一任となりました。その後数回幹事会を開き趣々検討いたしました。既に御承知の通り当会から「原色日本昆虫図鑑」を発行し、会名も広く日本全国に知られたつていますので、当分の間現状のまゝとすることに決定しましたのでお知らせいたします。これは東京方面の会員が

ら「近畿甲虫同好会」と云う会名では、近畿地方のフアウナその他を究明する地方的な会の如き感をいだくので、会名を変更されたら如何との御意見からでございました。しかし機関誌の内容を御覧願えばそのような会でないことは一見明らかであり、会名は單に近畿地区に事務所を有することから名付けられたいものでございますのでせいぜいお知合いの虫友諸氏に御入会を御勧誘下さるよう併せてお願いいたします。

「ねじればね」希望欄

本誌の一定紙面を会員諸賢のため開放、あらゆる希望をのせて行きたいと思ひます。又これを読んでその希望をかなえてあげられる方は進んでその方と御連絡下さい。多くのものを收容したいと思ひますから文面は簡単にねがひます。長いのは内容を変えない程度に短縮させて頂きます。

- 全国の同好会機関誌にのつた「天牛類の地方目録其他の別刷」を希望します。御礼に拙著別刷の適当なものを差上げます。
(大阪市 住吉区 墨江面三ノヒ一 林 匡夫)

- 全国各地のコウモリ類に寄生するノミを求む。
(但しアルコール70%に液漬のもの)

(西宮市 浜脇町 74 阪 口 浩 平)

保有社よりお知らせ

甲 込 先
大阪市東区久宝寺町1の20
保有社 振替口座大阪12346番

まようおしし費ではま程ざやをで結御御ろいにりにかり収編昨さ
す。う申しまし上るの御初た。しやいく別増果迷購がた増、うま録は、昆き
お申込ましたるの希望版つとまし鋭冊と改なをのそま改和申た、虫に
願ひ下さい、ことにお向購き成たが、中発分しおたた版三十し、の図刊
い申し、にわに入まいた、で行だけはめ。を年れ、もの版行の
上げず、何卒申奥方てこのごすけのる大初と発行月あ者あ少
原色

会費納入方法変更につきお願い

当会々費は規約により年額300円と定められておりますが、オ5巻(1950年度中に発行すべきもの)が1950年8月・1952年3月と3ヶ年にまたがり、オ6巻(1951年度中に発行すべきもの)が1952年8月から1955年12月まで足かけ4ヶ年かゝつてしまいました。その間会費は各巻300円づつしか頂戴しておらず、即ち正年によらず巻数により処理してまいりました。本年度から馬力をかけておくれを少しずつでも取戻したいと計畫しております。機関誌「昆虫学評論」の発行がおくれを取戻し、年2回の正常な発行になりますまで、会費は巻数によりお納め願うことになりましたので何卒御諒承の程御願ひ申し上げます。

本年は4月末、8月末、12月末の3回発行を計画しており、4月・8月にオ7巻を完了、12月発行分はオ8巻オ1号でございます。それ故現在お納め願っております会費300円はオ7巻に充当いたします、12月には改めてオ8巻分300円を御請求いたしますので事情御賢察の上よろしく御願ひ申し上げます。(会計担当幹事 大倉正文)

昭和30年度収支計算書

収入之部

入会費	900-
会費	7,500-
バツカン代	4,000-
原色昆虫図鑑稿料	170,000-
大会々費	2,400-
雑収入	40143
前期繰越金	13,00857
合計	198,210-

差引

次期繰越金 37,887-

支出之部

印刷費	5,750-
通信費	7,372-
消耗品費	1,797-
大会費	3,300-
幹事会費	1,740-
図鑑出版記念会費	13,524-
図鑑執筆者謝礼	100,000-
図鑑購入費	26,400-
雑費	440-
合計	160,323-

註. 昆虫学評論オ5巻オ6～9輯の印刷費 ¥39,600- は、本年度には含まれてありません。

近畿甲虫同好会・神戸市東灘区御影町天神山46.

本誌に関する御希望・御意見は
分口市長池町34 河野 洋宛